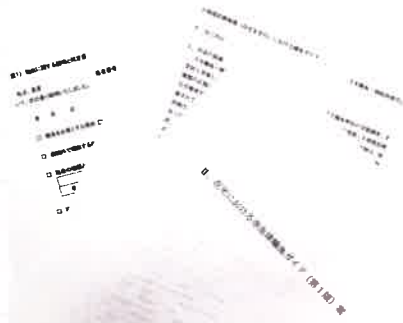




## 地域の要望に応じて在宅輸血を開始

7月、K(急性期)病院の退院調整看護師さんよりの依頼。新横浜在宅クリニックは在宅・外来での輸血療法ができますか? MDSや再生不良性貧血の患者さんがK病院では外来で輸血療法を受けておられる方が多い。また腫瘍内科や血液内科のベッドが空かず、必要な患者さんの治療にも支障をきたす、新横浜在宅クリニックでMDSのS様をお願いできませんか?との問い合わせ。これに応え、当院はPS良好なSさんに外来受診していただきICを行い、同意を得てまずは外来にて血小板輸血を開始した。これまで東京女子医大にて輸血手技で多くの経験を持つ城谷典保院長をリーダーに、「中小規模医療機関(在宅を含む)における輸血ガイド(日本輸血・細胞治療学会編)」に

基づき院内にてカンファレンスを開始。血型や感染症検査等の情報は病院側より提供いただき、当院では血算やクロスマッチ検査などを適宜に行う体制と、



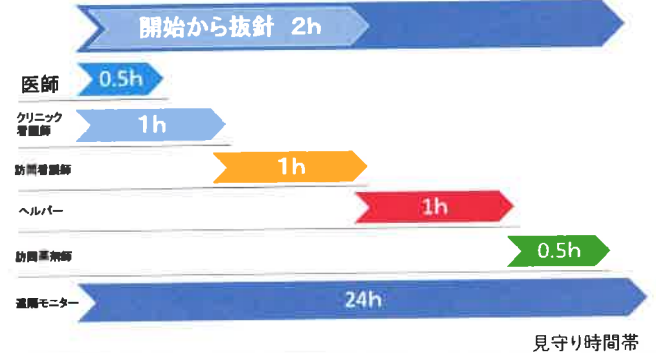
輸血ガイド

神奈川県赤十字血液センター(当院より車で5分)への前日発注、当日には2時間の見守り体制も確保しつつ緊急時対応の準備も整える。このようにしてまずは外来輸血からのスタートとなった。Sさんはその後血液経路が取りづらくなりK病院にてポート造設の短期入院もされるが、現在も外来にて血小板輸血を継続治療中。今後ADLが低下されると在宅にての輸血療法に移行する計画である。

在宅輸血療法の機会はSさんの外来輸血開始直後にAさん(MDS)の輸血療法相談をK病院より受ける。血算の値が低く週1での全血での輸血療法だ。当院外部から見守りのための訪問看護師と訪問薬剤師、さらにはヘルパーステーションにも見守り連携をお願いし当院チームと院内にて合同カンファ

を開き互いの役割分担と見守り時間帯を確認し合う。さらに

### 在宅での輸血見守り



は通信機能付き24時間遠隔モニターも同意書を得て試験的に導入し、輸血後の状態変化に対応した薬剤もご自宅に保管するなどの準備体制を整える。初診往診開始後の10数日後、Aさんは在宅輸血開始予定前に亡くなり、在宅輸血療法の導入には至らなかった。

K病院よりの紹介の3.4例目はOさん、Mさん。Oさんも家族の要望で外来にて輸血開始の計画であったが、直前の前日に緊急入院。ご本人家族とも退院が叶えば外来・在宅での輸血を希望されていたが、病状が改善されずその後転院となっている。またMさんは11月より訪問診療を開始したが、血算の値よく2ヶ月が経過したがMさんも未実施だ。

5例目はS病院より紹介のKさん、赤芽球癆を起因とする貧血を改善するための在宅輸血を開始した。やはり合同カンファを行い24時間モニター(商標名:ハートライン)も試験導入し療法を行った。

6例目はC病院紹介のTさん(肝硬変)、在宅にてアミノレバン投与と前後して輸血療法を行っている。Tさんは腹水貯留もあり、最近では腹水を抜く、適宜な輸血で状態を診ており改善も期待できるほどに回復の基調となっている。

### ハートラインとは

在宅・施設の療養環境と医療職・介護職をつなぎ、療養環境を必要に応じ継続的にケアすることが可能なシステム。在宅で患者さんなどがバイタル(体温・血圧・動脈酸素飽和度・血糖)を測定すれば自動的に機器に取り込まれ、クリニックなどの施設でリアルタイムに観ることも、また経時的に記録(温度板の作成)することも可能です。その他、簡易なビデオ通話の機能も持っています。



# チーム医療で在宅患者さん80人を超えました。

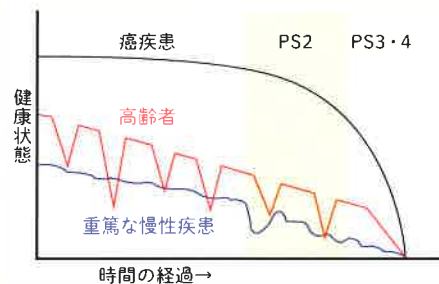


新横浜在宅クリニックは2017年1月に新横浜2丁目、通称  
 労災通りに在宅療養支援診療所を開設。医師2名、看護師  
 2名、診療アシスタント2名、連携調整1名など診療体  
 制を整えたのが4月。ここから地域の急性期病院の10施  
 設に連携を求め、在宅への移行を望まれる患者さんの逆  
 紹介をお願いし、かつ港北区・神奈川区・鶴見区・都筑区・  
 緑区の各地域ケアプラザや居宅介護支援事業所、訪問  
 看護ステーションへ当院の紹介活動を開始した。

当院の特徴は、住み慣れた自宅（居宅等）で看取る「地域  
 緩和ケア」の提供を本分として、医療依存度の高い患者  
 さんもフットワーク良くチーム医療を構築しつつ診ること  
 にある。急性期病院からは、がんや心不全、糖尿病、COPD  
 など様々な患者さんの紹介を受けた。自宅での疼痛管理、  
 PEG交換、腹水・胸水穿刺、在宅輸血、各種のカテーテ  
 ル管理も行い、慢性疾患にあってもその重症化を未然に  
 防ぐよう定期診療（訪問診療）と24時間の連絡対応、往診、  
 看取りを行ってきた。また患者さん・家族と都度に話し、

「地域緩和ケア」では疾患や病状の説明に図表を用います。

当院の訪問診療時に心がけていること。それは患者さん家族のお話をよく聞き、  
 illness trajectory（疾患の軌道）の図を示しながら、その時々の患者さんの希望  
 を尊重して診ていきます。がんや心不全、サルコペニア・フレイル、神経難病など、  
 人生の最終段階においては各疾患により様々な経過をたどると説明しています。  
 痛みのコントロールにはエドモントンの図表、より詳しい病状の説明を求められた  
 ときには、医師がその場でイラストを書き説明をしています。



ご自宅での看取りを希望されれば訪問看護師やケアマ  
 ネージャー、調剤薬局などと患者さん・家族の希望やご意思  
 を共有し、入院を希望されるなら連携する病院や希望され  
 る医療・介護施設へ紹介してきた。

地域のケアマネージャーからは、慢性疾患などの非がんの  
 患者さん紹介を主に受けてきた。かかりつけ医を持たない  
 市民が急変し即日緊急対応した往診のケース、近医に往  
 診を拒まれ港北区在宅医療相談室に電話相談し当院紹介  
 を経て緊急往診・看取りとなり在宅療養期間が8日間と  
 なったがん治療のケースもあった。

8月には介護付き有料老人ホームより医療依存度の高い  
 患者さんを、診て欲しい、経鼻胃管などを抜去されても入  
 院すること無くホーム内でフォローして欲しい、ホームでの  
 看取りを希望される方には住み慣れた居室で人生の最終  
 段階を迎えたいとの要望に

応え、がん患  
 者及び非がん  
 患者さんを今  
 では20名近く  
 診ている。

当院医師や訪  
 問看護師、調

剤薬局薬剤師、ケアマネージャーなど多くの医療・介護職  
 の連携を通じて2017年末現在、20名の在宅看取りを行  
 い80名の在宅医療患者さんを診ている。

## 2017年度実績

依頼患者数	125(名)
在宅移行 出来ず	105 10
在宅看取り がん:非がん	21(64%) 11:7
病院看取り(癌)	11(36%)
在宅療養中 待機中	73 4

## 診療時間 ※休診日：土曜・日曜・祝祭日

		月	火	水	木	金	土	日
9:30 12:30	外来	○	○	○	○	○	×	×
	訪問診療	○	○	○	○	○	×	×
13:30 17:30	外来	休診						
	訪問診療	○	○	○	○	○	×	×

医療法人社団鴻鶴会

## 新横浜在宅クリニック

神奈川県横浜市港北区新横浜2-3-3  
 新横浜ウエストビル4階

TEL: 045-548-5228 FAX: 045-548-5229

<http://www.shinyoko-clinic.jp/>